

2025年1月27日

日本ジオパーク新規認定・再認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、第49回日本ジオパーク委員会（2023年）で保留とした1地域の新規認定の可否及び2024年後期現地調査を行った10地域の再認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

日本ジオパーク新規認定：蔵王

日本ジオパーク再認定：伊豆大島、箱根、銚子、ゆざわ、桜島・錦江湾、立山黒部、下北、筑波山地域、浅間山北麓、鳥海山・飛島

現在、日本ジオパークは48地域である（うちユネスコ世界ジオパークは10地域）。

日本ジオパーク認定

蔵王

御釜火口を有する活火山「蔵王」とその麓に広がる扇状地、白石カルデラが作る田園盆地や青麻火山が作る地質地形に加え、蔵王参詣の古道や古くから信仰の地として発展した文化的遺産を有する。2023年の審査で指摘された課題のうち、ロゴマークの決定や拠点施設の開館などの取り組みが進められたことが確認でき、今後ジオパークとして発展が期待できる。

以上のことから、日本ジオパークとして認定する。

日本ジオパーク再認定

伊豆大島

前回の指摘事項に対して丁寧な検討と対応がなされ、ジオパークの取り組みが前進している。特に、ジオパークの可視性が向上し、来訪者に分かりやすく情報が提供されている。地域経済の活性化を意識したジオガイドが観光や学校教育、防災の分野で活躍し、ジオパークの価値を高めている。国や都と連携した防災教育も強化されている。火山博物館のリニューアルオープンを機に、さらなる管理運営体制の充実が図られることを期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

箱根

小学校や図書館でのジオパーク普及教育、海洋環境教育、登山道整備、自然災害伝承碑の調査・登録など優れた取り組みが実践された。一方で、事務局の管理体制や運営の大幅な改善が急務である。また、ジオツーリズムの推進、パートナーシップの構築、ビジビリティの向上に向けた活動も不可欠である。今後4年間の改善に期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

銚子

市民の会によるボトムアップ活動や、文化財とジオパークを一体的に扱った活動は本地域の優れた特色である。銚子ジオパークミュージアムの大規模改修が進行中であり、その他の拠点施設の展示改修も行われた。持続的な運営体制と担い手の確保に課題があるものの、幅広い年代を対象とした教育活動が展開され、地元大学との連携では博物館実習課程からの新たなガイド誕生も期待される。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

ゆざわ

ジオパーク認定商品制度の展開、地熱開発事業者と連携した施設設置による可視性向上や環境教育の推進、小安峡での常駐型ガイドサービスや公募による子どもジオガイドなどユニークな取り組みを行っている。一方で、サイト整理や情報発信などに課題が残ることから、事務局が一体となって解決を加速させることに期待したい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

桜島・錦江湾

前回の指摘事項への対応は進み、大半は解決済みまたは取り組みが開始された。地域ブランディングやジオパーク拠点施設の整備が課題として残るが、ジオパーク理念の浸透や可視性の向上が進み、複数自治体で構成するジオパークとしての運営体制が強化された。関係者の連携によるボトムアップアプローチの充実や、質の高い看板の設置、地域活性化に貢献した出版物が評価できる。水資源を活用したブルーツーリズムや国内外のジオパークとの交流も充実している。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

立山黒部

民間団体が運営するジオパークとしての強みを生かし、構成員それぞれが主体的に活動することで、数多くの事業の進展が認められる。サイトの保全が会員や所有者らによるボトムアップによって実施されるようになり、新たに確認された地質遺産の調査研究が進められ、学校教育においても利用されるようになった。今後は民間と行政とのさらなる連携強化により、ジオパークの可視性や拠点施設の整備の向上を期待したい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

下北

構成 5 市町村の連携ができており、ジオパークが一体的に運営されている。ジオパーク教育活動や地域学習、日本ジオパーク全国大会開催等、また、サポーターの会やガイドの会など、住民によるボトムアップの活動が認められる。さらに、観光事業者と連携した体験メニューの提供、マスメディアを活用した情報発信が積極的に展開されている。仏ヶ浦の研究に大きな進展があり、今後、国際的な地質学的価値の創出に向けた取り組みに期待したい。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

筑波山地域

サイトの見直し、拠点施設「つくばジオミュージアム」の完成と活用、地元の石材遺産の活用などを通して、ボトムアップ形式の活動や各市の連携強化などの効果を生み出している。今後、多様な教育の推進、ツーリズムの推進、パートナーシップの強化、新しいサイトの案内・解説看板の整備等に取り組み、地域内ネットワークを強化しながら地域の持続可能な発展に結びつけることを期待する。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

浅間山北麓

3つの専門委員会が、協議会事務局とともにボトムアップの活動を行っている。「熔岩樹型」や「浅間石」の保全活動、ガイド同行限定のツアー等によるジオツーリズムの推進、火山災害の語り継ぎ活動などを通じて、ジオパークの個性や価値を高めている。拠点施設として新たに「やんば天明泥流ミュージアム」が開館し可視性が向上した。今後さらに、解説看板をわかりやすくする工夫や広いエリアに対応したガイドの養成などが求められる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

鳥海山・飛島

推進協議会が法人化され、5つのエリアごとに活発な教育やジオツーリズムの活動を展開している。また、鳥海山の山体崩壊と地震の隆起で生まれた象潟の景観の保全と研究が官学民一体で進んでいる。近い将来、ユネスコ世界ジオパークを目指そうとの機運も高まるなか、地域全体としてのジオパーク活動を推進し、地域の国際的価値の共有が求められる。

以上のことから、日本ジオパークとして再認定する。

以上